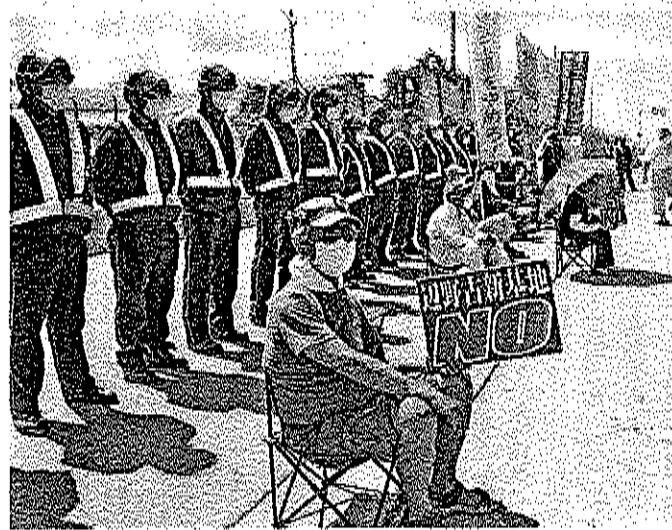
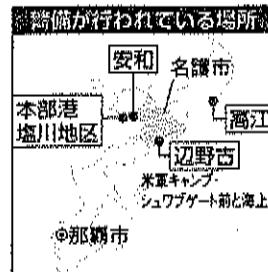


辺野古新基地警備費



居並ぶ警備員の列（左側）の前で、新型コロナ感染症対策のため間隔を空けて座り込む人たち＝2021年9月27日、沖縄県名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワフゲート前



18004万円

沖縄県名護市辺野古の米軍新基地建設に伴う警備費用が、2014年の開始以来約600億円の範囲で上がったことが分かりました。防衛省沖縄防衛局が本紙の取材で明らかにしました。新基地建設に対する眞理の運動に対する監視・弾圧に巨額の税金がつかなれています。

同様にようど、陸上と海上の警備業務をそれぞれ業者と契約。事実上の建設工

事に着手した14年7月～21

年12月28日までの契約金額は、総額で約609億円に

のおりました。陸上警備業務は11件で約305億円、

海上警備業務は8件で約3

04億円。これらを単純に

契約件数で割ると、1日あ

たり約2224万円に達しま

す。

これに加え、埋め立て工

事契約の中でも警備業務を

実施。防衛局は「工事全体

の金額から警備業務に係る

金額を正確に示すのは困

難」としながら、警備業務

に相当する金額は合計15億円のうち警備費用は約1

9億円だと明らかにしました

た。この金額を含むと、700億円だと計算しまし

たが、工事が長期化すれば

総額約768億円に達し、警備費用もさらに膨張しま

す。

1日あたりの警備費はこれら

に膨れ上がります。

また、同県東村高江の米

警備業務は、工事車両が

出入りする米軍キャンプ・

シュワフゲート前や、土砂

を搬出する本部港塩川地区

総額609億円 住民運動監視・弾圧に巨額の税金

■契約中の警備業務（辺野古）

件名	契約期間
シュワブ(R2)	2020年9・1～22年1・31
本部地区(R2)(その2)	20年9・1～23年1・31
本部地区(R2)(その1)	20年10・1～23年1・31
シュワブ(R3)	21年8・19～23年12・28
シュワブ(R元)	19年9・13～22年2・28
本部地区(R2)	20年12・8～23年1・31
シュワブ(R3)	21年8・19～23年12・28

件名	警備業務相当額
シュワブ(H26)仮設工事	約78億円
シュワブ(H27)傾斜堤護岸新設工事(2工区)	約2億円
シュワブ(H29)埋め立て工事(2工区)	約46億円
シュワブ(H29)埋め立て工事(3工区)	約33億円

県民の理解得られぬ証し

（）辺野古反対協議会の抗議船船長の金井創さんとの話によれば、辺野古の海上では朝7時から一日10隻ほどの警備船が配置されていますが、制限水域から「出てください」とアナウンスするだけでも必要はない、税金の無駄遣いであります。2011医療に回すべきです。

9年には残業代が支払われないなど警備員の労働条件が悪化しています。警備費が膨大なのは、県民の理解が得られないといふべきです。新基地建設に湯水のようだ税金を使ひすぎます。沖縄の経済や医療に回すべきです。